

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	16-062	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Usual alcohol consumption and suicide mortality among the Korean elderly in rural communities: Kangwha Cohort Study. 韓国農村部の高齢者における飲酒と自殺による死亡率の関連について: Kangwha コホートスタディより		
執筆者		
Yi SW, Jung M, Kimm H, Sull JW, Lee E, Lee KO, Ohrr H.		
掲載誌		
J Epidemiol Community Health. 2016 Aug;70(8):778-83. doi: 10.1136/jech-2015-206849.		
キーワード		PMID
飲酒、自殺死亡率、韓国農村部、高齢者		26888918
要 旨		
目的： 一般集団において、通常を上回る量の飲酒が自殺による死亡リスクを上昇させるかどうかは明らかではない。本研究では、飲酒量と自殺による死亡との関連を検討した。		
方法： 韓国の農村部における 55 歳以上の 6,163 人 (男性 2,635 人、女性 3,528 人) を 1985 年から 2008 年まで追跡調査した。飲酒については頻度および量よりアルコール換算量を算出し、1 日あたり (非飲酒, <70g, 70-139g, ≥140g) あるいは週あたり (非飲酒, <70g, 70-209g, 210-419g, ≥420g) の飲酒量でカテゴリ化した。Cox 比例モデルを用いて飲酒量による自殺のハザード比 (HR) および 95% 信頼区間 (CI) を算出した。調整項目は性、年齢などの他、社会経済状況 (婚姻状況や教育歴など) および健康に関する情報 (自己評価による健康観など) とした。		
結果： 追跡期間中の自殺による死亡者は男性 37 人、女性 24 人であった。非飲酒者と比べ、飲酒量がアルコール換算で 70g/日以上 (70-139g: HR 2.47, 95%CI 1.12-5.41, ≥140g: HR 2.84, 95%CI 1.12-7.18) または 210g/週以上 (210-419g: HR 2.99, 95%CI 1.17-7.61, ≥420g: HR 2.93, 95%CI 1.27-6.78) 飲酒する群で自殺による死亡リスクは高かった。1 週間に飲酒日が 1 日増加 (HR 1.17, 95%CI 1.05-1.31)、1 飲酒日あたり 70g の増加 (HR 1.38, 95%CI 1.13-1.70)、1 週間当たり 140g の増加による自殺死亡リスクはそれぞれ 17%、38%、12% 上昇した。また女性は男性と比較して飲酒量に関連した自殺死亡率の相対リスクが高かった。		
結論： 飲酒量は“少ない方が良い”ことを再確認し、適正飲酒が予防的に作用する事が示唆された。また性別を考慮したガイドラインが自殺予防として有効である事を示した。		